

『アフリカの奇跡』と言われる国ルワンダからお届け

ルワンダコーヒー通信 Vol. 4

アフリカ大陸中央に位置する小国ルワンダ。カップオブエクセレンスも開催され、今コーヒー界でも急成長して世界から注目を集めるルワンダコーヒーの魅力を余すところ無くご紹介します。



コーヒー農家は今何してる？

日本では寒さが緩み始める3月、ルワンダではコーヒーの収穫が始まります。ウォッシングステーション（以下CWS）と呼ばれる加工場では現在、アフリカンベットと呼ばれる干し台の整備等、収穫準備の真っ最中。コーヒーの実は初め、写真の枝先のような緑色で、これが明るい色になり、やがて美しい赤色となります。完熟したコーヒーは宝石のようにきれいです。この真っ赤な実の中にコーヒー豆が入っています。収穫が始まると、ルワンダの山々を、真っ赤なコーヒーチェリーを運ぶ農家さんの姿が見られます。

ルワンダ人にとってのコーヒーとは・・・？

ルワンダでは100年以上前からコーヒーを栽培していますが、お茶を飲む文化が強く、コーヒーを飲む習慣は根付いていませんでした。年配の方にコーヒーについてお聞きすると「そんなものを飲むと死んでしまう」という声を聞く事があります。近年になり、首都キガリを中心にカフェが増え、若者を中心にコーヒー文化が形成され始めました。心配していた農家さんも実際飲むと「美味しい」とのこと。自分の豆の美味しさを分かって大事ですね！



多種多様なCWSが存在！

“千の丘に囲まれた国”と言われる程、丘の多いルワンダは地域によって環境も様々。だからこそ、沢山の個性的なCWSがあるんです。右記がその一例。栽培されるチェリーも味わいは様々で、北部は標高が高いためゆっくり熟してジューシーに、南部は標高1,700m前後でフローラルの華やかさを、西部は湖に面した地形で寒暖差が大きくクリーミーなボディを、東部は栄養たっぷりの土壌で育ち明るい酸味を持ちます。そんな個性豊かなルワンダコーヒーをぜひご賞味あれ！

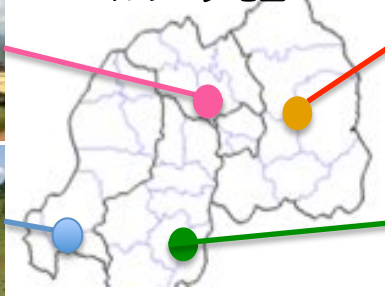
山の頂上にそびえるCWS



急斜面の水流を利用したCWS



ルワンダ地図



豊潤な水源湖のそばに位置する広大なCWS

観光地のように綺麗に環境整備されたCWS

コーヒーツアーもこれからが旬！

ルワンダでは近年観光客の増加に伴い、名産のコーヒーをより身近に感じてもらうと“コーヒーツアー”を地域で開催しています。エコツーリズムとして脚光を浴びているこのツアー、コーヒー農家に扮して季節に応じて異なる体験ができるので収穫やロースト体験もできちゃうんです。また、農家のこだわりポイントや栽培の豆知識がふんだんに盛り込まれていて、飲む楽しみが広がる工夫がされてます。



ルワンダらしい限定のお土産も

ルワンダ
まめ知識

～ルワンダでQ-grader試験が開催～

2月22日-27日の6日間でQ-grader（カップリングの国際資格）の試験が開催されました。ルワンダには現在16名しか資格保有者がおらず積極的な教育がされています。

■編集者情報：セパール(Coffee Exporters and Processors Association of Rwanda) ルワンダの輸出業者とコーヒー加工業者の組合。肥料の分配や国内外の展示会でのルワンダコーヒーの紹介等を事業として行なっている。来日経験のあるピエール氏が代表を務めています。

■連絡先：rwanada.coffee.japan@gmail.com ■URL：www.ceparwanda.org